

「捨てたらアカン」

ルーカス・ヘイクス (アメリカ)



マリナーパークの西側、みなさんが海水浴するビーチから少し離れているところに、小さくて静かな砂浜があるのをご存知ですか。よく晴れた日には、そこから西側に住友の工場群が見えます。夕暮れ時に浮かびあがるそのシルエットは本当にすばらしく幻想的です。波打ち際では、ヤドカリやカニなどの小さな生き物を探したり、散歩したりできます。のんびりと過ごせる、のどかな砂浜です。ぼくのお気に入りの場所、誰にも教えたくないちょっとした隠れ家のような場所です。

こんな素晴らしい砂浜を台無しにしているものがあります。それはゴミです。ゴミが多すぎるのです。ポカリスエットのペットボトル、ボスコーヒーの空き缶、コンビニ弁当のプラスチック容器など、挙げたらキリがありません。それらのゴミが砂浜に帯を作ったように打ち上げられ、満潮時に波がどこまであったか、はっきりわかります。ひどいです。

ぼくにはさっぱりわかりません。新居浜市のごみ分別辞典は23ページもあります。日本に初めて来たとき、このおそろしいほど細かいゴミの分別に本当におどろきました。アメリカではこんな分け方は考えられません。やっぱり日本ってすごいと感心したものでした。しかし、こんなにすばらしいシステムがあるのに、どうしてたくさんのごみが落ちているのですか。それに、落ちているのはゴミだけではありません。なんとイヌやネコまで落ちています。

ぼくの妻は、先ほど初級Aの部で「みんなでノラネコをすくおう！」というスピーチをしたセレストですが、彼女は先日すてネコを三匹ひろいました。無責任に捨てられた、小さく無力な生き物を、見て見ぬふりはできません。ぼくがネコアレルギーなのに、ひろったのです。そして、自己負担で避妊手術をして里親を探しました。どうしてそこまですると不思議に思った方もいるでしょう。

生き物い もの たいに対しても、物もの たいに対しても、僕ぼくたちには責任せきにんがあります。なんでもか
んでも自分勝手じぶんかってにポイポイと捨すてたらダメなのです。自分勝手じぶんかってに捨すてないとい
う一人ひとりひとりの責任感せきにんかんが、動物保護どうぶつほごに、環境保護かんきょうほごにつながっていきます。一人
でできることなんて、たかがしれているじゃないか。どうせ他ほかの人ひとが捨すてるん
じゃないか。そう思おもっている人ひともいるかもしれないですね。しかし、あきらめ
たらダメです。捨すてたらアカン。あきらめたらアカン。

あきらめないで、ぼくたちはぼくたちにできることをひとつずつやっていき
ましょう。そして、一緒いっしょにぼくたちの愛あいする新居浜にいハマを、素敵すてきな町まちにしていま
しょう。